



# 臨嶺会会報

第33号

2012年春発行

## 目次

特集「自然災害を考える」		最近の検査「バーチャルスライド」	…… 20
活断層と向き合う覚悟は？	…… 2~3	松本便り	…… 21
東日本大震災の恐怖	…… 4	こじ記	…… 21
東日本大震災を経験して	…… 5	2011年のできごと	…… 22
臨嶺会会員の近況報告	…… 6~17	卒業生の進路	…… 23
祝 退職		事務局からのお知らせ	…… 23
高宮 脩 先生 就任当時を語る	…… 18~19	臨嶺会総会のご案内	…… 24
カミングホームデー		(付)出欠席返信葉書	
卒後40周年 衛検4回生	…… 19	編集後記	…… 24

# 特集 「自然災害を考える」

## 活断層と向き合う覚悟は？

信州大学全学教育機構 教授 大塚 勉

2011年は、地質学を仕事としている身にとって、ほんとうにいろいろ考えさせられたというよりも、その前に実際に行動することを迫られた年でした。

### 長野県北部地震で地中レーダー調査

東北地方太平洋沖地震発生の翌日、3月12日未明に新潟県境付近の栄村でマグニチュード6.7、最大震度6強の「長野県北部地震」が発生しました。この地震では、3名の犠牲者と多くの家屋の全半壊被害が出てしまいました（写真1）。栄村は豪雪地域ですが、何メートルもある積雪下での地震被害を私は初めて目の当たりにしました。

雪解け後、電磁波を用いる「地中レーダー」という機器を使って地盤と被害の関係について調べてきました。大きな箱形のレーダーのアンテナをゴロゴロと引きずって、集落の中でデータを取りました（写真2）。この方法によって、地下にかなり軟弱な地盤が存在していることが明らかになり、それが被害を大きくしたことがわかりました。

栄村は「信濃川断層帯」と呼ばれる活断層帯の上にあります。2004年の新潟県中越地震もこの断層帯で発生しました。いずれの地震も、断層が主に地下で動いた結果でした。

### 歩いて調べた松本の地震

6月30日には松本市南部の芳川付近を震源とするマグニチュード5.4、最大震度5強の地震が発生しました。震度5強というのは、松本市役所の震度計の記録によるもので、松本市南部ではもっと強く揺れただろうと考えられています。市内の広い範囲にわたって家屋に被害が生じ、犠牲者も出てしまいました。

この地震は未知の活断層が地下で動いた結果でした。地震の震源が、近く大地震を起こすのではないかと心配されている牛伏寺断層からそれほど離れていない場所（約3km西）に位置していたため、不安は一気に高まりました。

当日は発生直後から被害調査に出かけました。牛伏寺断層が走る中山台には外見的に目立った被害はありませんでした。それよりも西側の田川沿いに移動すると、塀や墓石の転倒、屋根瓦や壁の破損が目に入ってきました（写真3）。道に瓦やブロック塀の破片が散乱しています。余震が起こると家がきしみ、住民が「揺れた！」と声を掛け合っ外に出てきます。

地震当日から研究室の学生や協力者とともに被害調査を始めました（写真4）。実際に路地という路地を歩いて巡り、家屋の被害を地図と記載カードに記入していきました。暑い盛りに調査が始まりましたが、やがて秋風を感じ、日も短くなった11月に入って2500件以上の被害例を調べてやっと一段落しました。被害に遭われた多くの方と調査の中でお話をする機会があり、逆に励まされました。

### 地盤条件と被害

一見非効率に見える調査でしたが、震央（芳川小学校付近）に近いにもかかわらずほとんど被害が目立たない地域がある一方で、震央から遠く隔たっていても被害が顕著な地域があることもわかりました。

田川に沿った並柳から平田東、寿にかけての地域は震央から隔たった場所ですが、とくに大きな被害を受けました。田川沿いには軟弱な地盤が広く存在しているものと考えられます。また、松本市中心部には、飛び地的に被害が集中している地域があります。ここにも著しく軟弱な地盤が存在しているようです。

その一方で、震央からそれほど離れていない村井駅周辺ではそれほど大きな被害は認められませんでした。わずかに高い地形をしているこのあたりの地盤は良好です。

並柳小学校の敷地内では、小規模な液状化現象が起こりました。ここは、小学校が建つ前は溜め池で、それを埋め立てて作った土地でした。人工的に作られた局所的な地盤状況も被害に結びつきます。

今回の調査の結果から、地質調査会社や自治体と連携して地盤条件を詳しく調査して適切に公表すれば、これからの震災被害をかなり軽減できることを感じています。



# 特集「自然災害を考える」



写真1 長野県北部地震の被害（栄村青倉）



写真2 地中レーダーの調査（栄村青倉）



写真3 松本市で発生した地震による被害



写真4 地震被害の調査（松本市）

## 身の回りには活断層

松本市南部の牛伏寺断層を含む糸魚川-静岡構造線断層帯は、今後30年間にマグニチュード8の地震を起こす確率が14%とされています（文科省地震調査研究推進本部）。これは我が国の内陸部ではほぼ最高です。このため、牛伏寺断層からの距離の大小によって安全あるいは危険と判断される傾向がありますが、実はこれには心配な点がいくつかあります。

まず、6月の松本の地震で明らかになったように、地震の被害の程度は地盤の状況によって大きく変わります。被害は、地震を起こした断層からの距離に単純に依存するものではないということです。また、松本盆地にはたくさんの活断層が知られていますが、断層の活動履歴や活動周期について検討されているのは牛伏寺断層を含む糸魚川-静岡構造線断層帯の一部だけです。さらに、牛伏寺断層と兄弟関係にある未知の活断層がほかにもあることが予想されます。牛伏寺断層から単に遠いからといって安心はできません。

3月の東北地方太平洋沖地震の規模が非常に大きかったため、東北地方以外の地殻に加わる力に変化を与えたと考えられています。長野県を含めた中部日本以西の地方において、今後しばらく地震活動が活発な時期が続くと思われます。そもそも松本平や善光寺平などの信州の盆地群は、中部高地の中に活断層によって作られた低地です。生活の場にある活断層からは逃れられませんので、準備をして地震と向き合う覚悟が必要です。



# 特集「自然災害を考える」

こちらに赴任してから3年になろうとしています。2011年は私にとって一生忘れられない年になりそうです。3月11日午後2時46分東日本大震災が発生しました。当時、所用のため横浜からアパートに帰宅したところで、突然の大きな長い揺れに驚き、外に出たのですが、電柱が今にも倒れそうな光景に言葉を失い（震度5弱）、さらに30分後には大きな余震（震度5強）があり、立ってられない大きな揺れに今まで経験したことのない恐怖感を覚えました。揺れが収まった後にサイレンが鳴り響き、大津波警報と“高台に避難して下さい”というアナウンスが何度も流されたのですが、近くには高台がなく

“もう終わりかな”と頭をよぎったほどです。結局、津波はアパートまで襲って来ることはなく助かりましたが停電、断水のため、2日間クルマの中で寝起きする生活でした。その後、断水が1ヶ月間続いたため大変な毎日で、普通に生活できる喜びをあらためて感じさせられました。

大学の方は、春休み期間ということもあって、地震発生時にキャンパスにいた教職員および学生の全員が安全に避難でき良かったのですが、キャンパスは広範囲に津波の洗礼を受け（写真1）、特に本部キャンパス（写真2）、カフェマリーナ（写真3）、図書館（写真4）は大変な被害を受けました。入学式の開催や



写真1. 千葉科学大学および周辺の浸水状況

## 東日本大震災の恐怖 —大学と周辺の被害—

千葉科学大学大学院 藤田 清貴（元信大保健学科教員）

また、キャンセルなどが相次いでいた犬吠埼などの観光地には、徐々にですが観光客が訪れるようになってきています。現在では、震災の影響はほとんどありませんので、ぜひ太平洋を一望する開放的なロケーションと、リゾートの雰囲気があるキャンパスにお立ち寄りいただけたらと願っております。

震災前

震災後



写真2. 震災前後の本部キャンパス

震災前

震災後

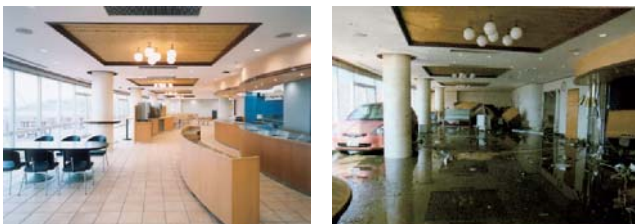


写真3. 震災前後のカフェマリーナ

震災前

震災後

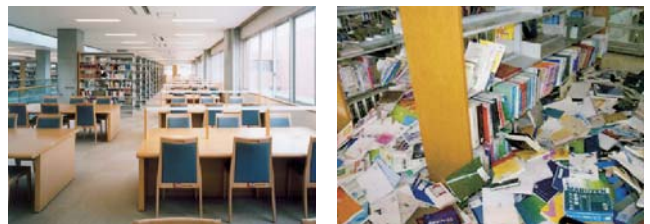


写真4. 震災前後の大学図書館内

（\*写真1～4は「千葉科学大学震災記録」から抜粋）



# 特集「自然災害を考える」

2011年3月11日。私の住む福島県はいまだかつて経験したことのない大地震とそれに伴う大津波、そして福島第一原発事故に見舞われました。

当時、私の勤務する病院でも震度6弱の地震が発生し、かなり長時間大きく揺れました。天井から落ちてくる塵、亀裂の入る壁、崩れ落ちる備品...あまりの恐怖に膝の震えが暫く収まりませんでした。地震発生直後、すぐに対策本部の設置・状況の把握が行われ、断続的に発生する

大きな余震に備え、患者さんを一時的に病院外へと避難させることとなりました。当然エレベーターは使えなくなっており、階段での移動です。とにかく患者さんを少しでも安全なところへ移動させようと皆必死でした。切迫した状況の中で、非常事態の緊張感と共に、職員一丸となって協力し合う一体感があったのを記憶しています。

その後各種報道でご存じの通り、深刻な物資



## 東日本大震災を経験して

いわき市立総合磐城共立病院 中央検査室 白石 琴美 (保4期生)



(写真：松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト 提供)

及び燃料不足が起きました。これにより通勤が困難となったため、私を含め病院に泊まり込む職員も多数いました。さながら戦場の

ような殺伐とした状況下で原発事故さえなければ...という思いも少なからずあり、皆肉体的にも精神的にも極限状態でしたが、お互いに励まし合い、助け合いながら日々の業務に当りました。



恥ずかしながら病院勤務一年目の私ができたことなどほんの僅かでしたし、このような災害を目の前にして何ができるか、何をすべきかをもっと知っておくべきだったと反省する点が多々あります。また現在も、線量計をぶら下げた子供たちの姿を目にしますと、大変な時代になったと危機感が募ります。現在、当院でも内部被ばく検査が行われていますが、今後検査技師

としてこの問題にどのように向き合うべきか考えていかなければなりません。最後に、震災後全国から沢山のご支援を頂きました。応援のメッセージの入ったうちわなど、大変励みとなりました。皆様からの温かいご支援を、この場を借りて感謝申し上げます。



# 臨嶺会会員の近況報告

## 衛1

柳平 きみ子 (旧姓 太田)

### 未来は開ける

第1回生として卒業以来40年余りが過ぎました。今年は大震災や天候不順やらで経済も停滞し大変な年になってしまいました。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。9月22日より秋田に旅行してきました。新幹線の大宮を過ぎた辺りからの車窓から、屋根をブルーシートで覆っている家が目立ちました。地震が広範囲だったことを改めて思い知らされました。秋田では震災で疲弊している経済を活性化しようとボランティアに汗を流す若者たちに触れ、この若者たちがいる限り未来は開けると明るい気持ちになりました。私事ではポケ防止に写真などブログにupしたりして日々暮らしております。検査も飛躍的に高度なものになっているようですが、先生方から学んだ基礎のお陰で理解できる力を蓄えられたことに感謝しております。当時を思い出し、何と未熟であったことかと懐かしさと皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。大変お世話になりました。

次号：春日(上島)久美

(編集委員会推薦)



## 衛2

碓田 恭子 (旧姓 小町谷)

### 彼らに学び

今年3月の大地震は大自然の前に人間の無力さを思い知らされ、途方に暮れる思いでしたが、大津波からほぼ全員が無事に避難された釜石市の小中学生さん達の勇気と防災意識の高さに感心しました。

私達もいつ、どんな災害に見舞われるかわかりません。彼らに学び自然災害から家と地域を守るようにならなくては、と改めて気を引き締めています。信州に移り住みたいという方に“安心しておいで下さい。”と言える街作りをしたいです。

次号：武井 正子



## 衛3

木村 恵子 (旧姓 加藤)

長野中央病院(事務職)

### 脱原発の声

ずっと続けてきた臨床検査技師を定年退職して2年目になりますが、同じ病院の健康管理科で、事務職として、慣れないパソコンに向かいあっています。

孫の笑い声に包まれて、平穏に毎日過ごしていますが、半年も経った今日も大震災のニュースを聞かない日がない毎日、未曾有の大震災、思いもかけなかった大津波と言っても、なかなか進まない復興に、また原発事故の恐ろしさに、悲しみと苛立ちを覚えます。

孫たち、子供たちの未来のために、地球の未来のために脱原発の声をあげ続けたいと思います。

次号：輿 政子



## 衛4

関谷 久美子 (旧姓 仁木)

### 茶道で・・・

今年は、3月の大震災を始め大洪水、台風と度重なる災害に心痛む年でした。皆様も、それぞれの立場で御苦労をされたこととお見舞い申し上げます。

私は結婚と同時に検査の仕事から離れ、その後再就職も叶わず、今は全く畑違いのことに忙しい毎日です。20代で始めた茶道という趣味が高じて、10年程前から高校茶道部に指導や、自宅で教室を開くようになりました。

同窓会報を手にする度に検査技師時代を懐かしみ、多くの同窓生の活躍をまぶしい思いで拝見しています。

次号：飯島(南沢)かず江





# 臨嶺会会員の近況報告

## 衛5

殿村 静香 (旧姓 伊藤)

### 気力

松本を離れて30年、まったく検査から遠ざかってしまいました。子育て、夫の両親の介護と見送り。そして今実家の母が術後、介護状態になってしまいました。そういう年代となりました。それにしましても3月11日の大震災、それだけでも甚大な被害だということに放射能汚染、私たちはとんでもないものを受け入れてしまったんですね。

今、多少若くて元気なうちにと、夫との時間を作ってはあちこち出かけています。10月には静岡に原発、リニアの問題の勉強会に行ってきました。周りの素敵な人生の先輩を見ていて最後は気力だと実感しているこの頃です。

次号：松下（江塚）郁子

## 衛6

中平 房子

### キャベツ・大根・ゴーヤ、送りました

2年半前に退職して、自家用野菜と花畑作りに精を出しています。今年は野菜が食べきれず困っていましたが、『震災の被災地にお届けする救援物資に野菜も』のチラシに「これだ！」と、キャベツ・大根・ゴーヤなど何回か送りました。地球温暖化の所為か、年々自然災害が大型化しているようです。私も、微々たるものですが節電を心がけながら、不夜城の生活形態を考え直しても良いのではなかろうかと考えるこの頃です。

2年間休息をとり、4月から毎日ではありませんが働き始めました。臨床は離れましたがそれもまた新鮮です。

次号：赤羽（堤）志津子

## 臨1

石川 順子 (旧姓 小松)

### パイ作り

東日本大震災というショッキングな出来事から半年が過ぎました。映像や記事から家族・幸福感といったものを改めて考えさせられる半年でした。そんな中、二人の娘は何とか就職し、少しはのんびりできるかと思いきや母親達が少しづつ手が掛かるようになり、一日・一週間がアツという間に過ぎる今日この頃です。

この時期、我が家では庭の紅玉りんご（主人の素人作り）を煮て作るパイが食卓を飾るのが定番となっています。娘と顔を合わせながら食べるのもあと何年かと思案しながらパイ作りに励んでいます。皆様のご活躍をお祈りします。

次号：田中（小沢）恵子

## 臨2

森下 邦子 (旧姓 米川)

静岡県立総合病院

### 自分に最適な仕事

静岡に住んで30年余り、今の職場（病理検査室）に勤め始めて20年経ちました。病理には学生の頃から縁があり・・・、今思うと自分に最適な仕事だったなと思います。自分の息子よりも若い技師さん達と楽しく仕事をしている毎日です。

この寄稿の依頼が届いた頃、日経新聞に教え子が書かれた那須校長先生の記事を見つけました。那須先生が病理学、それも血管病理学の権威でいらしたことを初めて知りました。入試の面接で、ホルマリンの肺の臓器を前に那須先生の質問に恥ずかしい答えを沢山した記憶が甦り懐かしく思いました。

次号：渡辺（湯沢）松子  
(編集委員会推薦)

# 臨嶺会会員の近況報告

## 短1

小島 由美子 (旧姓 鳥羽)

### つぶれない家の改築

近年、日本各地で地震や台風などによる大きな災害が起き、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

我が家では、建て付けの悪くなった家の間仕切りに壁を増やし筋交を入れ、地震で傾いてもつぶれない家になるよう改築しました。

私は数年前に病を発症し、治療および経過観察中です。治癒は5年あるいは10年が目安ですが、病のことは深く考えずに笑って暮らしていきたいと思っています。

次号：青木 (二木) 政子

## 短2

吉村 真弓 (旧姓 大橋)

### ちょっとエコな生活楽しんでます！

映画[ライフいのちをつなぐ物語]を見て、地球上の全ての生物が健全に命を繋ぐために、地球に優しいことをしてみようと思いました。震災復興支援の自転車を主人に買って貰い、片道10km程の所には、そのママチャリで移動、お陰で少し体力増進です。また、地デジ化で、我が家は完全ラジオ化です。先日、30年前に愛聴していたラジオ番組の、顔も知らなかったパーソナリティの方の名前を見つけ、声をかけたらご本人で、驚きの再会(?)となりました。今は、朝6時からAM1134文化放送にはまっています！

次号：荒牧 (片桐) 千恵子

## 短3

金丸 登喜子 (旧姓 吉川)

### 22%節電

今は半日検査の仕事をしながら、心と体をいたわって、のんびり生活しています。たまに孫達(4歳と2歳)と遊ぶのが楽しみで、ほんとうにかわいいと実感しています。

3月の東日本大震災はほんとうに恐ろしい出来事で、一日も早い復興を心より願っています。私は節電に努めました。エアコンは使わずに甲府の35度以上の猛暑日乗り越えるなどして、9月分の電気代は昨年より22%節電できました。また、今回の原発事故の恐ろしさを思うと、早く原発に依存しないですむ日本になることを望んでいます。

次号：宇留賀 (赤羽) 和代  
(編集委員会推薦)

## 短5

林 悦子 (旧姓 小口)

### オールドローズ

被災者のみなさま、復興に力を尽くされているみなさま、いつも応援しています。今自分に何ができるか考え、すべきことをきちんとすること。一日も早い復興を願ってやみません。

退職後、大阪はずれの田園都市で庭づくりを始め、試行錯誤の末、無農薬でオールドローズを育てています。かつて病原菌としてとらえていた微生物も、オーガニックでは頼もしい味方。自然の中でたおやかに咲くバラたち、自分もそうでありたいと日々楽しんでます。

次号：綾田 (長田) ゆかり



# 臨嶺会会員の近況報告

短4

木内 直子 (旧姓 中沢)

## 被災地域の広さにあぜんと

未曾有の大災害となってしまった東日本大震災。被災された方々のニュースを見聞きするたびに「自分にできることがあるなら何かお手伝いしたい。」多くの方がそう思い、実際行動に移された方も多かったのではないのでしょうか。私は半年たった9月ようやく時間が取れ宮城県山元町にボランティアに向う機会を得ました。ボランティアの内容は草刈と仮設住宅訪問。被災地を車で走ってみるととにかく津波の被災地域の広さにあぜんとしてしまいます。被災された皆さんは「みなさんに本当に良くしてもらって何も望むものはありません」と。しかし先の見通しが全くついていない方がほとんどでした。半年経ってもまだこんな状況・・・原発事故も深刻です。目に見えないのに私たちの細胞を蝕み人間が制御できない放射能。“脱原発”が圧倒的多数の声なのに国の対応は相も変わらない。

この会報が手元に届くころには少しでもいい方向に動いていますように。

次号：佐倉（青木）京子  
(編集委員会推薦)



短6

金井 敬子 (旧姓 関)

## 議員として野菜販売

被災された皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。私は、下諏訪町の議会議員となり、今年で三期九年目になります。震災以降、福島第一原発から避難されてきた方達の町内での受け入れ、東日本大震災被災地でのボランティア活動、風評被害を受けている野菜販売(写真、手前が私)などを行ってきました。微力ではありますが、引き続き、被災地の皆さんに思いを寄せ、長期的支援を継続していくとともに、災害に強い町づくりにも力を尽くしたいと思います。

次号：岩瀬 由美





# 臨嶺会会員の近況報告

## 短7

北村 弘文

長野市民病院

### 危機的な出来事が起き

ご無沙汰をしております。まずは東日本大震災において被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。先日、私にもこれまで経験したことのない危機的な出来事が起こりました。「災い転じて福と為す」などと楽観的に受けとめる余裕はなく、「これまでの生活を見つめ直すように」との神の思し召しと考えるに至りましたが、余りにも改善すべき点が多く、何が最も影響を及ぼしているのか判断できていません。こんなことを考える年齢になったというのが近況報告です。

次号：今村（飯野） 縁

## 短8

堤 紀美子

（旧姓 長崎）

### 普通の生活ありがたい

日本、世界で地震、雨、風—自然が猛威を振るった。千葉、茨城に住む親、弟達は少々被災したが、幸いにも今は普通に暮らしている。災害のニュースを見る度に心が痛むが、何事も無かった我家は、受験生を2人抱えて目先の事に頭が痛い。が、家も家族も皆無事で、今迄通りの普通の生活ありがたいと初めて思った。今の私には募金、購買等の金銭援助しかできないが“普通”の喜びが被災された方達に必ず訪れると願う！！

次号：池田（高橋） 寿江

## 短9

森下 みゆき

（旧姓 坂）

### 喪失感を思う

震災にあわれた皆様、謹んでお見舞い申し上げます。

私事ですが、この春、息子たちが大学に進みました。子育ても一段落・・・と思った矢先、実父が膀胱癌と診断され、入院・闘病を経て、この夏に亡くなりました。たった一人の肉親との別れにも、これ程の思いをするのです。突然の被災で、家族のみならず、友人も住居も失くす・・・。その喪失感は、想像を絶するものでしょう。家が半壊した友人は、「この震災を忘れないで・・・と伝えて欲しい。」とっていました。当たり前前のごとく、普通にできる日々が早く戻ります様、心からお祈りいたします。

次号：原（大島） 節子

## 短10

早川 美代子

（旧姓 内田）

山梨県立中央病院

### 多くの職員が派遣され

2011年の度重なる災害では、自然の脅威を思い知らされることとなりました。被災された臨嶺会会員の方々にはこの場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

卒業後就職した病院は、基幹災害医療センターに指定されており、今回の災害でも多くの職員が被災地に災害派遣され、悲惨な現状を目の当たりにしてきました。

災害は一瞬にして多くのものを奪い去ってしまいます。しかし、人は支えがあれば絶望からも立ち上がっていけると思っています。＜がんばろう！日本＞を合言葉に現状から眼を背けることなく、被災された方々に寄り添う心を持ち続けていきたいと思います。

次号：高野（清水） 範子



# 臨嶺会会員の近況報告

## 短11

吉川 美津子 (旧姓 野村)

### 地震の恐怖 子供の頃から

被災された方々にお見舞い申し上げますと共に、一日も早く平穏な生活を取り戻していただきたいと願っています。自分に何かできる事はないかと考えながら半年過ぎましたが、少しばかりの募金くらいしかしていません。できるかぎり長く、支援を続けていきたいと思っています。私の住んでいる静岡も30年以上前から東海地震の近い将来の発生を示唆され、地震に対する恐怖感子供の頃からありました。今回の想像を絶する大きな被害に直面し、日頃から家族で話し合うこと、地域の繋がりを持つこと、できることから備えたいと思います。

次号：中村 (西沢) 恵華



## 短12

池上 明子 (旧姓 青木)

### 自分にできることは何かを考え

東日本大震災を始め、日本各地で、そして栄村や松本など県内でも相次いで震災が起きました。被災されました皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

今の私の生活は、同じ日本と思えないほど震災前となら変わることなく、平穏無事な日々であります。これってすごく幸せなことだと痛感しています。今の私にできることは単に自己満足なのかもしれませんが、わずかばかりの募金と少々の節電くらいのものにすぎません。それでも、自分にできることは何かを考え、実行したいと思っています。そして一日も早い復興を願っております。

次号：服部 (稲垣) 繁香  
(編集委員会推薦)



## 短13

羽田 和男

### 日本みつばちとキンリョウヘン

震災被害の皆様、心よりお見舞い申し上げます。ここ松本も6月に震度5強の地震にみまわれ、少なからず被害を受けました。あらためて自然の猛威、現代文明の危うさを痛感させられました。いま、このときを自分なりに精一杯生きることや、人との絆の大切さの記憶を呼び覚ますことができました。

さて、人生も半ば、折り返し地点を意識する年齢になりました。(折り返しは今なのか、これからなのか、もう過ぎたのかはわかりませんが)そこで、昨年から密かに抗年齢対策に、日本みつばちを捕獲して飼育して、みつばちさんの効能ある蜂蜜をいただくという目論見でトライ中ですが、現実はずいぶん。まだ捕獲に成功していません。巣箱をひと冬外気にさらして、それから蜂を誘引するキンリョウヘンを入手してと、今年こそはとあれこれ策を巡らせる日々です。

今年は辰年。冒険や夢を追いかける、そんないわれもあるようです。いい年になりますように。

次回：阿部 悟

(編集委員会推薦)



## 短14

仲田 明子

### 住宅建築の仕事

東日本大震災や台風に被災された方々には、心からお見舞い申し上げます。

私の住んでいる静岡では、何十年も前から大地震の可能性を指摘されていますが、今回改めて天災の恐ろしさを感じました。住宅建築に関わる仕事をしているのですが、いろいろな状況を想定しなければならぬと思いました。

また日々の生活を送れることに感謝して自分にできることをしていきたいです

次号：櫻井 (天野) 由佳利  
(編集委員会推薦)



# 臨嶺会会員の近況報告

## 短15

土田 博子 (旧姓 岩田)

### 主に一般検査

まずは東日本大震災や台風による大雨などで被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。復興支援として私にできることといえば、募金をすること、節電に取り組むことぐらいで大変心が痛みます。早く皆様が元の生活を取戻すことを心から願っています。

近況報告としては、総合病院のランチにパートとして採用されて早1年が経ちました。主に一般検査をやっています。子供は1年生になり、空いた時間が出てきました。何かを始めてみたいなあ。とは思ってみますが元々のんびりした性質でもありなんとなく毎日が過ぎていってしまいます。人生矢の如し、なのに...

次号：菊池 (大崎) 美佐子  
(編集委員会推薦)



## 短16

村下 ちなつ (旧姓 原)

飯田市立病院

### 油断していたけれど

就職して20年近くになります。何でもスマートにこなす若者たちに比べ、頭も体も随分動きが悪くなっていると感じる昨今です。

さて、今年は震災、台風など大きな災害が相次いで起こっています。私が住む飯田市も東海地震の警戒区域に指定されていますが、今まで何事もなく過ごしていたため少々油断していました。東日本大震災が起きたことで「東海地震も必ず起こる」と意識するようになりました。福島から避難して来られた方に接する機会もあり、思った以上に震災を身近に感じています。一日も早く復興されるようにお祈り申し上げます。そして日頃の防災意識を高め、生活を見直したいと思う今日この頃です。

次号：恩田 (植田) 千佳子



## 短17

磯村 亜子

### 新しい命

ご無沙汰しています。皆様、お元気ですか。今年は東日本大震災が起こり大変な年となってしまいました。私もほんの少しでもと、ゴーヤとキュウリの緑カーテン、冷蔵庫カーテン、エアコンと扇風機の併用、就寝時のアイスノン使用と人並みの節電対策を実施しました。一日でも早く被災された方々に笑顔が戻ることを心からお祈りしています。さて、私の近況を少しだけ...。卒業して3箇所の職場でお世話になった後、今年9月からは新しい命の誕生を心待ちにしながら家でのんびり過ごしています。今後しばらくは今までとは違う生活をしてみたいと思っています。

次号：齋藤 (佐藤) 留美子



## 短18

今村 仁美 (旧姓 板花)

信州大学医学部内科学第一講座

### 実験補佐として

最初に就職した製薬企業を出産のため退職し、7年半の子育て期間を経て、信州大学医学部内科学第一講座で働き始め早6年目となりました。こちらでは実験補佐として勤務しています。

私の業務において、東日本大震災など様々な災害の影響を受けることは、ほとんどありませんでした。

しかし、医局の先生方が震災支援のため被災地へ行く姿を目の当たりにし、平穏な日々のありがたさを感じながら、毎日過ごしています。

次号：大池 (高木) 里枝  
(編集委員会推薦)





# 臨嶺会会員の近況報告

短19

中野 朝子 (旧姓 八木)

## 家の畑で野菜作り

東日本大震災並びに台風で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。募金位しかできませんが、一日も早い復興を願うばかりです。我が家は、東海地震が予想される地域にあり、海岸からも近い場所にあります。震災後は、小さな地震にも敏感になり、最近非常持ち出し袋を用意しました。地域防災訓練では、津波の際にどのように避難するかが話題になりました。我が家も高齢の祖母を始め、小さな子供達を連れてどこまで逃げられるかを考えると、自信がありません。災害が起らないことを祈るばかりです。

話題は変わりますが、私は長女の出産を機に退職して4年経ちました。4歳の長女、2歳の双子(次女、長男)の母となりました。長女を幼稚園に送り出し、双子を義母に見てもらい、気分転換に家の畑で土いじりしています。家族が家で採れた野菜を「美味しい!」と言って食べてくれるのが今の私の小さな幸せです。子供達にはもっと野菜を食べてもらいたいのですが…平和な生活が長く続きますように。

次号: 家田 誠

(編集委員会推薦)



短19



お姉さんのお仕事が忙しい双子のお姉ちゃんと、いつも一緒の双子です。



短20

知久 めぐみ (旧姓 須藤)

厚生連北信総合病院

## 「長野県母親大会」に参加

ただいま5歳と2歳の2児の母です。バタバタと過ぎていく日々ですが、これもまた幸せ。仕事と子育てを支えてくれる家族にも感謝の毎日です。

先日、地元で開催された「長野県母親大会」に参加。母親というだけあって女性の参加が多かったわけですが、年代層幅広く1000人超(!?)の人達が集いました。討論会や講演、震災復興のメッセージなど、改めて女性の強さ、たくましさを感じ、暗いニュースが多い世の中ですが、元気とパワーをもらった気がします。

LOVE FOR NIPPON (<http://www.lfn.jp>)

次号: 岡本 (田中) 順子



短21

一瀬 悦子 (旧姓 中沢)

SRL 相模原ラボ

## 非常用電源を使用して検査

卒業してから現在までエスアールエルに勤務しています。今は相模原ラボラトリーで治験関連の検査をしています。

東日本大震災の時、相模原市は震度5弱で自宅や職場での大きな被害は免れました。

春には計画停電が実施され、勤務時間を早朝にシフトし、停電時には非常用電源を使用して検査を行いました。夏は検査室を集約して空いたフロアを閉鎖し、蛍光灯の間引き、食堂使用時でも消灯する等、節電に励みました。

震災が起きて、今まで当たり前だと思っていた日常生活が送れることの幸せを実感しています。被災された方々はまだまだ大変な思いをされていると思います。1日も早く復興することを心から祈っています。

次号: 西澤 (金井) 純子





# 臨嶺会会員の近況報告

## 短22

江原 淳子 (旧姓 宮坂)

ミロクメディカルラボラトリー

多くの方々からご支援をいただきました

皆様お元気でしょうか。現在は仙台のラボに勤務しています。ラボの立ち上げで仙台に赴任し、1年半が経ったころ東日本大震災に遭遇しました。言葉では言い表せない不安を感じていたことを思い出します。この震災では多くの方々からご支援をいただきました。そして互いに協力し助け合うことを改めて実感させられました。この経験を忘れることなく、そして今後に生かしていければと思っています。

次号：大澤 佳代

(編集委員会推薦)

## 短23

甲田 美和

長野市民病院

アラサーで再出発

30歳を目前にして7年間勤務した地元を離れ、現在は長野市民病院にて生理検査を担当し6年目を迎えています。できの悪い私を雇い、丁寧に仕事を教えて下さった2つの職場の方々には本当に感謝しております。

18歳で親元を離れ、知らない土地で一人暮らしを始め心細かったあの頃と同様、アラサーでの再出発は孤独感でいっぱいでした。そんな私も現在では良き同僚に恵まれ楽しく仕事をし、良き仲間にも恵まれて趣味のバスケットにソフトに野球にと汗を流し、美味しいお酒を飲み、充実した日々を送っております。あとは、良きパートナーに出会えますよーに!

次号：丸山 聡

## 短24

多加喜 アスミ

イムス三芳総合病院 (臨床工学技師)

透析患者さんの受け入れ

こんにちは。卒業してから数年は神奈川で遺伝子研究に関わり、その後大阪に戻り臨床工学技師になったりしていたら10年以上経っちゃっていました。

今年3月始めに埼玉に越し、新天地で気分の一転と思っていたところにあの震災がありました。幸い私の周りに被害という程のものはありませんでしたが、勤務先の病院に東北の透析患者さんが一時的にやってきました。私自身は通勤に40分位歩いて通ったりしていました。半年が経ち周囲は落ち着き、私も職場に慣れました。今、日々に忙殺されそうなかでも被災して平穏な日常を過ごせていない人達のために何が出来るかを考えていられる自分です。

次号：池田 春菜

## 短25

坂本 恵 (旧姓 片山)

諏訪マタニティークリニック

生殖医療、やりがい

東日本大震災において被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

私は、卒業してから現在まで、諏訪マタニティークリニックに勤務し、生殖医療に関わっています。臨床検査技師としては特殊な分野ですが、生命の誕生に関わることができ、やりがいを感じています。

私生活においては、6年前に結婚し、2人の子どもに恵まれました。現在は、2人目の子の育児休業中です。上の子と毎日、おままごとやブロック、外で遊んだり、子供を飽きさせないようにするのに必死です。なかなか、のんびり過ごす、というわけには行きません・・・

次号：木下 順子



# 臨嶺会会員の近況報告

## 短26

藤島 章義

九州大学病院検査部

ガンバレ東北

今の職場に就き、あっという間に7年が過ぎました。仕事はぼちぼちですが、頑張っております。東日本大地震では多くの尊い命が失われました。6年前に福岡県西方沖地震を経験しましたが、今でもあの時のことは鮮明に覚えております。私個人では非常に微力ですが、募金や献血などできることは積極的にしております。少しでも早い復興を心から願います。

次号：水口 由美子

(編集委員会推薦)

## 短27

北川 一美 (旧姓 上谷)

芳珠記念病院

赤ちゃんを抱えての非難生活を思うと・・・

昨年11月に出産し、現在育児と仕事に毎日奮闘しています。

3月11日の地震、育休中だった私は、TVを見ていて騒然としました。さまざまな方が被災された中、小さな赤ちゃんを抱えた方もたくさんおり、オムツ、ミルク等が不足していると知り、大変心を痛めました。

私の住んでいる石川でも、物資を募る活動が盛んにあり、私も微力ながらオムツ等を寄付させてもらいました。自分の状況を考えると、赤ちゃんを抱えての集団非難生活は本当に大変だと思います。

今回の地震では、災害時の家族の集合場所や、家の非難グッズ、職場での対応・・・災害時の備えについて、再確認させられました。今の日本ではどこでも起こりうる地震やその他災害、人事ではない、という意識を強く持ちました。

被災された方には、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

次号：植木 明子

## 短28

山口 美香

GE Healthcare 超音波本部  
クリニカルアプリケーションスペシャリスト

展示会場で会えるのを楽しみに

現在、超音波診断装置のクリニカルアプリケーションスペシャリストとして、医療機器メーカーに勤め、中部・北陸を中心に活動しています。日々の業務の多様さにも楽しくも翻弄されながら気づいたら卒業8年くらい経っていることに驚いています。

日々訪問する施設や学会の展示会場で、同級生や同じ学校の先輩・後輩、先生に偶然会えるのを楽しみにしています。

また、今年は東日本大震災があり、会社として義援金だけでなく、超音波の寄贈など1千万\$の支援をしました。そして震災前の東北支社のマネージャーが現在私の上司です。身近で震災の話聞きながら、一緒に元気に働いています。

次号：伊藤 (西沢) 博美





# 臨嶺会会員の近況報告

短29

山下 美帆 (旧姓 伊東)

ママちゃん、だあいすき

東日本大震災ならびに台風等により被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

医短を卒業後、大学編入→就職→結婚→出産→勤務医の夫の転勤2回とジェットコースターのように時が過ぎ、気がつけば今は名古屋で2歳の娘の子育てに奮闘中です。娘は夫に似てお喋りも上手になり、毎日大好きなAKBの真似をして歌って踊って、私たちを笑わせてくれます。わがままに振り回されイライラすることも多いですが、「ママちゃん、だあいすき」と笑顔で抱きついてくる娘が可愛くてたまりません。学生時代はバリバリ働くことを夢見て頑張っていた私ですが、今の幸せな生活も悪くないかなと思います。子育てもなかなか面白いものですね。

次号：渡邊 小百合

(編集委員会推薦)

短29



保1

藤澤 絵里香 (旧姓 小澤)

おなかを蹴られながら顕微鏡

出産を機に家にこもっていたのですが、子供が1歳になったこともあり、もう1度外へ出てみようと思い、今の職場に籍をおかせてもらうことになりました。結婚前に勤務していた職場と雰囲気が違うので、慣れることに苦労しましたが、なんとか頑張って働いています。

今は主に一般検査を担当していますが、難しい症例が多く、勉強の毎日です。

年が明けてから第2子出産予定ですが、おなかの中から蹴られながら顕微鏡とにらめっこの日々を過ごしています。

次号：阿部 優太郎

(編集委員会推薦)

保2

梨本 博美 (旧姓 森)

早い復興を

2010年3月に結婚したのを機に、お世話になっていた諏訪赤十字病院を退職しました。同年5月には新居も完成し主人と両親と暮らしています。今年は東日本大震災をはじめ多くの天災が起きました。幸いにも私や家族に被害はありませんでしたが、震災直後は不安で仕方ありませんでした。被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。募金や節電など小さなことですがこれからも協力していけたらと思います。1日も早い復興を願っております。

次号：平 千明



# 臨嶺会会員の近況報告

## 保3

長谷川 陽子  
長野県立木曾病院  
仙台の七夕

日本各地で災害に見舞われ、被災された皆様にはお見舞い申し上げます。震災後、私も仙台を訪れましたが、空港とその周辺のギャップに驚かされました。自然というのは恐ろしいということを改めて感じ、また短時間で復興を進めている人の力もそれに負けていないと思いました。いろいろな思いのこもった打ち上げ花火、七夕飾りはとても素晴らしいものでした。仙台で元気をもらった分、周りの方の力になれるよう日々精進していきたいです。

次号：稲見 恵里

## 保4

西雄 一貴  
佐久総合病院  
とある検査技師の体験録

2011年3月11日金曜日、私は所用にて実家に帰省しなくてはならなくなり東京経由で京都を目指すことにしたのですが、東京14時48分発のぞみに乗車し、発車するのを待っていた時、激しい横揺れに襲われ車内で待機していました。駅構内で待つようにとのことで、駅の隅で約5時間待機してましたが、ようやく東海道新幹線だけが動き、約5時間かけて京都まで帰ることができました。そこでようやく状況を知ることができたのですが、まさかあのような状況になっているとは想像もできませんでした。それから検査技師として何かできないかということでバザーなどに積極的に参加してきました。被災地に役立っていればと思っています。

次号：林 奈津実

## 保5

内山 篤  
信州大学大学院医学系研究科保健学専攻  
博士前期課程1年  
大学院で

信州大学の大学院で相良先生の教えの下、研究に励んでいます。大学院生になり半年が過ぎた今、研究を中心にした生活にもようやく慣れることができました。

心に余裕ができたためか、最近では効率を考えて実験することができるようになったと感じます。実験で思うような結果が得られずモチベーションが下がるときもありますが、いつもよりも手際よく実験ができていますと、もう一度頑張ろうという気持ちになります。大学院での限られた時間を有効に活用してこれからの研究を進めていきたいと思っています。

次号：稲葉 千紘







# 祝！退職

## 高宮 脩 先生 就任当時を語る！

平成24年3月末で定年退職することになりました。同窓会誌に何か書くようにと依頼されましたが、改めてこの23年間を振り返ると、会誌1冊分でも書き切れないほどの色々な思い出があります。

平成元年4月に信州大学医療技術短期大学部に就任し、在職中に本学は医学部保健学科検査技術科学専攻に改組（平成14年）され、19年には信州大学大学院医学系研究科（保健学専攻修士課程）、21年には同博士課程が設置され、着実に発展を遂げてきた本学で教員として教育・研究に携われ、定年退職を迎えたことに感謝します。教育・研究だけでなく、23年間には900余名の学生との出会いがあり、名簿を見れば、それぞれの顔を思い出し、その一人一人にはさまざまな思い出があります。限られた紙面であるため、就任した当時の思い出を綴ってみたいと思います。

20年間、国立大阪病院臨床検査部（現 国立病院機構大阪医療センター）で臨床検査技師として日常業務のほかに、毎年4-5校の臨床検査教育施設から来る実習生の指導と血液検査に関わる検討や研究を楽しんで行っていました。就任する前年の秋に、大変お世話になった方から、専任教員として学生教育にトライしてみないかとのお話がありました。

新人技師の教育や実習生の指導のほかは、在阪の医療技術短期大学や薬学部にも単発で授業を行ったことはありましたが、専任としての教育は行ったことはありませんでした。また、勤務地が長野県であることなど、大阪を離れたことのない私にとっては人生の転機となる機会でもありました。赴任することになれば、家族を伴うことになるので、事前に夫婦で松本を訪れタクシーで市内を観光しましたが、アルプス公園から見た真っ白な冠雪の北アルプスは今も目に焼きついています。運転手さんにどの程度寒くなるのかを伺ったところ、「最近では10℃になることは少ないですね」と言われたが、それがマイナス10℃のことであることを知ったのは赴任してからのことでした。

当時、大阪で教員をしていた友人から医療技術短期大学の実験室にはなにも揃っていないと聞かされていたので、勤務していた病院から実験試料や資材や一部の機材、書籍などをトラックで運び込みました。当時の校舎にはエレベーターがなく、春休み中でしたが、松本に残っていたK君に手伝ってもらい北校舎4階まで運び上げました。

臨床血液学や実習などの科目担当と2年生のクラス担任も仰せつかりました。短期大学部時代は一般教養の先生が1年生のクラス担任をし、2年生から専門学科の教員がクラス担当となっていました。わからないことはばかりでしたが、先輩の先生方に指導していただきながらのスタートでした。当時はまだ銭湯に行く学生がいたようで、冬場の風呂上りにタオルを振り回して帰ったら棒のようになったとか、睫毛にツララができたとか、大阪では考えられないようなことも聞かされました。学生のコンパにもよく付き合いました。ご本人は忘れていらっしゃると思いますが、コンパの2次会でクラブ？のような処に行き、気持ちよくなっていた女子学生がピアノの上で踊りだし、お店の方に大目玉を頂き、平謝りしたことを思い出します。放課後には、研究室で血液学実習班ごとに、たこ焼きパーティーを毎週行って学生と交流を深めました。学生は珍しがつて楽しんでくれましたが、研究室はしばらくたこ焼きの匂いが漂っていました。

授業では一般教養科目が終わったばかりの2年生に、病院検査部で日常に使っている専門用語を交えた専門的な授業をしていたように思います。Power pointもOHPもない時代で2コマもの講義を居眠りもせず、良く聞いてくれたと感心します。2年生後期の試験が終わると、野本先生や学生たちと梅池高原にスキー合宿に行ったのも楽しい思い出です。試験が終わった開放感もあり、夕食後のコンパは盛り上がったように記憶しています。



初年度の特論（卒業研究）は3人の学生が来て、そのうちの1人のテーマ「PIVKAの凝固阻害の検討」はその後に研究試薬や分析法の開発が進み、20年を経て修士学生が完結してくれました。

最初のクラス担任をした何人かの学生の結婚式にも招待され、祝福させていただきました。文部省在外研究（平成4年）で成田を発つ時に送りにきてくれた2人の学生も今や数人の子供のお母さんになりました。最初に担任をした学生は私が本学に就任した時の年齢と同じ位になっていることと思います。卒業後も、何人もの方から年賀状や近況報告のはがきを頂きますが、一家を支えている方、専業主婦をされている方、主婦業と検査技師との兼業で頑張っている方、昔の名前で活躍されている方、皆さん、元気に過ごされていることと思います。再会する機会があれば、お互いに若かったあの時代を語りたいものです。



## カミングホームデー 衛検4回生

私たち衛生検査技師学校4回生は、昭和46年3月の卒業です。還暦という人生の節目を迎えた平成22年12月に、卒業以来二度目の同級会を開くことができました。臨嶺会の「カミングホームデー」という企画がなかったら、集まるタイミングがないままに過ぎ去っていたかもしれません。

私たちの学年は総数20名（卒業時18名）と実にこじんまりとしていましたが、卒業後間もなく、三城牧場（広小場）でキャンプ、翌日に百曲がりを経て美ヶ原高原「美しの塔」までというユニークな同級会を開いて以来、なかなか集う機会が持てずにいました。

今回、長野県内外から8名の参加者と、学生時代に最もお世話になった上村英夫先生のご出席をいただき美ヶ原温泉「月の静香」で集うことができました。実に約40年ぶりの再会でしたが、日付けが変わって夜の更けるのも忘れてしばし学生時代の頃に戻り楽しいひとときを過ごしました。皆、それぞれの道を歩いていても、共有した時はしっかりと心に残っていました。今から考えると、たった2年間という短い時間でしたが、実に密度の濃い日々だったと改めて思いました。

一夜明けて翌日は、大学院を擁するまでに発展した母校を見学させていただきました。また私たちが病院実習でお世話になった「中検」は、新しく近代的な信大臨床検査部に変わっていました。臨床検査部の進化した最先端の分析機器、検査システムについて、菅野技師長さんと後輩の保健学科卒業生で臨床検査部に勤めている矢吹さんが、休日にも関わらずお付き合い下さり、丁寧に説明してくださいました。私たちの卒業時からは想像がつかない程に発展した臨床検査部を案内していただき、時代の流れの速さと同時に医学／臨床検査学の変貌も実感することができました。

また、そう遠くないうちに、3回目の同級会を企画し、そのときは今回の倍以上の出席メンバーでの再会を約束し、40年前の面影すら見る事ができないまでにすっかり変わってしまった「松本駅」で、名残を惜しみつつ、散会しました。

（山本 妙子 記）

## バーチャルスライド

### バーチャルスライドとは

スライドガラス上の標本全体を撮影し、デジタル画像にする装置（whole slide imaging）のことです。すなわち、顕微鏡を用いなければ見ることのできない標本画像をデジタル処理することにより、画像データとしてファイル化し、コンピュータ上、惹いてはWeb上で閲覧できることから、標本画像を多方面で活用することが可能となりました。

画像データ作成には、写真のような装置を使用します。バーチャルスライドという用語は、病理検査に携わっている会員の皆さんには既にお馴染みの用語で学会会場等で見たり、実際に勤務している病理検査室に導入している施設もあるかと思えます。



### バーチャルスライドの活用例

#### 術中迅速診断への活用

手術の精度を保證するものとして、術中迅速診断は欠かすことができないものですが、病理医のいない施設では、現在、大学病院や他医療施設等に依頼したり、病理医が派遣されたりして迅速診断が行われています。バーチャルスライドは他施設間（遠隔地）において病理組織画像を観察できる有用な装置であり、国内の一部地域で既に行われています。

#### 病理診断コンサルテーションへの活用

日本病理学会をはじめ、国立がん研究センターがん対策情報センター等、いろんな団体・機関で病理診断コンサルテーションを行っています。病理診断コンサルテーションは病理診断の質向上・均質化のために欠くことができません。一般的には、依頼病理医が学会等にHE標本や未染標本を郵送すると、そこでコンサルタントに振り分けられ、鏡検・診断後に再び返送されてくるシステムであるため、大変時間を要します。そこでバーチャルスライドの瞬時に画像を送る特性を活かして、日時の短縮を図るようにしています。

そのほか、病理標本作製や病理診断に対する精度管理への利用、学生教育への応用、研究分野への応用、Webによるバーチャルスライドカンファランス（細胞検査士会ホームページ）などへの活用例があります。

当院にもバーチャルスライドが導入されており、主に他院から紹介された患者さんの病理組織標本を再診断した際、他院にその標本を返却した後でも同じ画像が閲覧できるようにする目的で、日常業務として、ほとんどの症例をバーチャルスライドに取り込んでいます。

### 今後の展望

当院では、地域医療再生計画の事業として、地域がん診療拠点病院を支援するための「地域病理診断連携室」の創設を提案しています。その内容は、遠隔地における迅速病理診断および通常病理診断を行うために、遠隔地の病院と当院とをセキュリティの保たれた専用回線（VPN）で結び、病理情報を一元管理するための病理システム（バーチャルスライド機器を含む）を構築するというものです。

### 参考文献

1. 特集 進化するバーチャルスライド—現状と展望—, Medical Technology : 36 (8) 2008.
2. バーチャルスライドシステムを用いた病理診断支援, 病理と臨床 : 29 (12), 2011

信州大学医学部附属病院臨床検査部  
病理検査室 百瀬正信（短20）





## 曙橋完成！



曙橋の渡り初め風景

信大キャンパスとアルピコ自動車学校（旧長野県松本自動車学校）の間にある橋“曙橋”が、耐震基準を満たしていないため架け替えられることになり、一昨年の12月に取り壊されました・・・というところまでは昨年の松本便りでお伝えしましたが、ようやく、総工費5億4千万円の曙橋が完成しました！

昨年、夏ごろは工事があまり進んでいない感じでしたが・・・何か不都合があったのかな～と思い、松本市役所に確認したところ、河川の工事は基本的に水が増える時期は行わないことになっており、6月から9月までは工事を中断していたそうです。

晴れて2012年1月22日、町会主催の渡り初めが行われ、1月25日に開通しました。

渡り初めは・・・めでたいということで町内に住む3世代同居家族が先頭で歩きました。ニュー曙橋は、上・下流両方に2.5mの歩道ができて、道幅は7mに広がりました。

これから何百回渡ることになるかわかりませんが、大事に使っていききたいものです。次の架け替えは、カタクラモールそばの橋だそうです。

## こじ記

### ～松本の魅力を求めて三千歩～

お久しぶりです。『こじ記』も4回目を迎えたのですが、毎年どのような記事を書こうか、誰もが行ったことがあり、沢山の思い出があり、昔から今も変わらない姿を残している場所はないものかと考えています。恥ずかしながら、4年目にしてそのテーマにピッタリの場所を見つけました。今年は、松本の象徴であり、全国的にも注目されている『**国宝 松本城**』に行ってみようと思います。

**国**宝の天守閣を持つのは、姫路城、彦根城、犬山城、そして松本城の4城だけです。松本城は、戦うために造られた漆黒の城として有名で、現存する日本最古の五重天守の造り（内装は6階建）になっています。天守3階には窓がないため、外観は五重に見えるようです。天守2階には、武者窓と呼ばれる縦格子窓が多くみられ、1階には石落や矢狭間、鉄砲狭間が25ヶ所もあり、まさに戦国時代のお城といった造りになっています。戦いのイメージばかりが先行しがちですが、優雅な雰囲気を出し出す花頭窓のある辰巳附櫓、お月見をするために三方が吹き抜けとなる月見櫓といった美しい造りも見逃すことができない魅力となっています。大人は600円で入城できますので、雄大さと美しさを堪能してみてください。



**現**在の松本城は四季折々の楽しみがあり、春になると満開の桜の下でお花見が、夏になると盆踊りが、秋になるとお月見が、冬になると氷彫フェスティバルが、といったように多くのイベントが開催されています。

お城の観光を楽しむだけでなく、お城の周りで盛り上がるなんて、まさに活気あふれる城下町の面影を残しているといえるのではないのでしょうか。いつまでも変わらない松本城の魅力を皆さん感じてみてはいかがでしょうか。

余談ですが・・・皆さんは松本検定といわれる試験をご存知ですか？皆さんに松本の良さをお伝えするにあたり、私自身がもっともっと松本の地に精通しなければならぬと思い、今年の2月19日に行われる第6回松本検定を受験することを決意致しました。合否については次号をお楽しみに。頑張ってみよう！！

# 2011年のできごと

- 3月25日(金) 信大松本地区卒業式・学位記授与式  
4月 4日(月) 信大入学式  
4月25日(月) 接遇対策セミナー（4年生対象、臨嶺会として支援）  
11月30日(水) 就職・進学支援セミナー（2・3年生対象、臨嶺会として支援）  
講師：池田昌伸さん（佐久総合病院、衛6回生）  
山口美香さん（GEヘルスケア・ジャパン、短28回生）  
堀上 潔さん（GEヘルスケア・ジャパン）  
小嶋俊介さん（信州大学医学部附属病院、保2期生）  
湯本佳良子さん（長野県立こども病院）



池田昌伸さん



小嶋俊介さん



湯本佳良子さん



堀上潔さんと山口美香さん

就職・進学支援セミナー、講師の皆さん



# 卒業生の進路



保健学科6期生 卒業生35名（H24年3月卒業） H24年1月20日現在（ ）内人数  
就職：28名

長野赤十字病院(1)、JA長野厚生連安曇総合病院(1)、丸の内病院(1)、諏訪赤十字病院(1)、諏訪マタニティークリニック(1)、輝山会記念病院(1)、JA長野厚生連佐久総合病院(1)、丸子中央総合病院(1)、長野県職員(1)、山梨勤労者医療協会(1)、静岡県立病院機構(1)、富士市立中央病院(1)、名古屋第二赤十字病院(1)、総合病院南生協病院(1)、名古屋医師協同組合名古屋臨床検査センター(1)、名古屋記念病院(1)、愛知県がんセンター(1)、岐阜県総合医療センター(1)、JA三重県厚生連(1)、国立病院機構福井病院(1)、国立病院機構近畿ブロック(1)、京都第一赤十字病院(1)、近畿大学医学部附属病院(1)、兵庫県立病院(1)、金沢医科大学病院(1)、石川県医師会臨床検査センター(1)、富山市立富山市民病院(1)、旭川医科大学病院(1)

大学院進学：4名

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期課程)(1)、信州大学大学院医学系研究科医科学専攻(修士課程)(3)

大学院医学系研究科前期課程保健学専攻4期生 修了生7名（内社会人3名）

就職：3名

富山大学附属病院(1)、三菱化学メディエンス(株)(1)、サイトサポート・インスティテュート(株)(1)

進学：1名

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻(博士後期課程)(1)

大学院医学系研究科後期課程保健学専攻1期生 修了生3名（内社会人3名）

## 事務局からのお知らせ

### カミングホームデー

平成24年の該当は、卒後20年が短大17回生（平成5年3月卒）、卒後40年が衛6回生（昭和48年3月卒）です。臨嶺会として補助、協力（例えば構内見学など）をいたしますので、同級会を開催し旧交を温めてください。すでに卒後20年・40年を迎えられ、これから同級会を開催する学年につきましても補助をしますのでご連絡ください。

### 卒業後の証明書申し込み方法

卒業証明書、成績証明書等の申込みは、郵送および窓口のみの受付となります。詳細は「信州大学医学部」ホームページの「卒業生の方へ」の「卒業証明書発行について」をご覧ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/alumni/certificate.html>

### 会費未納の方へ

臨嶺会は皆様の会費により運営されております。平成24年1月現在で会費未納の方には未納金額のお知らせを同封してあります。会費納入にご協力をお願いします。振込用紙の通信欄に衛・臨・短何回生、会員番号を必ず記載してください。

振込先 ゆうちょ銀行  
口座番号「00520-0-20187」  
加入者名「臨嶺会」

なお、保健学科卒業生は保健学科同窓会にご納入ください。

### 事務局への連絡方法

改姓・住所・勤務先等の変更が生じた場合は、必ず事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。方法はメール、ハガキ、封書いずれでも結構です。

会報は臨嶺会ホームページではフルカラーにてご覧いただけます！

臨嶺会会報第33号は一部カラー印刷により皆様にお届けしました。編集委員会では、元の原稿はすべてカラーバージョンで作成しています。臨嶺会ホームページには、フルカラーの会報を掲載していますので、是非、ホームページでもご覧ください。URLは下記の通りです。

臨嶺会ホームページ：<http://www.mhoken.jp/rinreikai/>



## 臨嶺会総会のご案内

第15回臨嶺会総会を下記の通り開催いたしますので、ご案内申し上げます。多くの会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

日時；平成24年3月24日（土）13時より  
会場；信州大学松本キャンパス 旭会館3階大会議室  
内容；総会 経過報告・事業報告、会計報告・会計監査  
事業計画案・予算案、役員改選・会則改正、その他

### 講演会

講師 高宮 脩 先生（平成24年3月末 定年退職）

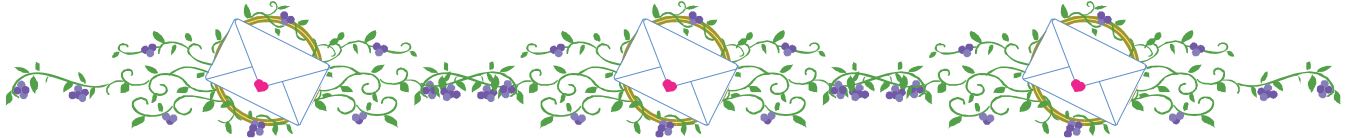
懇親会 15時45分より

会場：旭会館 2階「ライジングサン」

参加費：無料

自家用車でお越しの際は、大学正門より入構整理券（300円）を購入してお入りください。総会受付にて清算しますので領収書をお持ちください。

添付の葉書で出欠席をお知らせください。 締切り 3月5日必着



## 編集後記

昨年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経とうとしています。また、日本各地で自然災害に多く見舞われ、亡くなられた方々へのご冥福をお祈り申し上げます。被災された方々におかれましては、未だ不自由な生活を強いられたまま、それでも頑張っている姿は我々に勇気と希望を与えてくれます。近況報告では皆さんの自然災害に対するいろんな思いを感じることができました。ありがとうございました。

私が自然災害について思い出すのは、昭和36年梅雨前線豪雨（通称「三六（さぶろく）災害」）です。直接私に関わることはありませんが、母の出身である下伊那郡大鹿村で、大西山の山体崩壊による土砂（崩落範囲は高さ451メートル、幅280メートル）に叔母が巻き込まれ亡くなった話を思い出します。

この松本平でも6月に大きな地震（震度5）に見舞われ、被害が出ました。牛伏寺断層（糸魚川静岡構造線活断層系の1つ）ではなかったようですが、次の大地震の有力候補の1つに挙がっている断層なので、明日は我が身と怖さを感じています。被災した際は皆さん、助けてください。

編集委員会では、常時、特集記事を集っています。何か興味深いことがありましたら、是非ご一報下さい。お待ちしております。（文責 石川伸介）

## 臨嶺会会報 第33号

臨嶺会会長	奥 村 伸 生
事務局	寺 澤 文 子
	小 穴 こず枝
	亀 子 文 子
編集委員会	石 川 伸 介
	川 崎 健 治
	久保田 聖 子
	沖 村 幸 枝
編集協力	赤 羽 昌 子
	小 嶋 俊 介

印刷 株式会社ブラルト

## 臨嶺会事務局

〒390-8621 松本市旭3-1-1

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻

Tel. 0263-37-2387（ダイヤルイン）

Fax. 0263-37-2370（保健学科事務部）

e-mail kensa@shinshu-u.ac.jp

臨嶺会ホームページ

<http://www.mhoken.jp/rinkeikai/>

